1.　「平成２９年１０月度　修習技術者研修会」報告

2017.10.25
修習技術者支援委員会
委員補佐　伊井宏聡

2.　研修会概要

日　時　平成 29 年 10 月 14 日(土)
　　13:00～19:00
主　催　公益社団法人日本技術士会
　　修習技術者支援委員会
会　場　日本技術士会　葺手第二ビル5階

3.　研修会／発表研究会の内容

修習技術者研修会 司会･進行	靭　勝彦
開会挨拶 修習技術者支援委員会 委員長	13:00～13:05 石附　尚志
研修会の説明 修習技術者支援委員会 委員	13:05～13:10 靭　勝彦
レゴ®シリアスプレイ® (LEGO® SERIOUS PLAY®) を活用したワークショップ 概要の説明	13:10～13:20 城下りえ講師
ウォーミングアップ1	13:20～13:50
ウォーミングアップ2	13:50～14:45
休憩	14:45～15:00
演習	15:00～16:30
振り返り	16:30～16:45
クロージング	16:45～17:00
まとめ 修習技術者支援委員会 副委員長	17:00～17:05 野村　晃平
修習技術者発表研究会 司会	多田　淳
発表研究会の説明	17:05～17:10 松下　朋永
発表 「アウトソーシング考」 修習技術者(経営工学部門)	17:10～17:50 力石　賢氏
発表の仕方の説明	17:50～17:55 松下　朋永
情報交流会 (参加者による情報交流会)	18:00～19:00

4.　研修会の参加者

今回の研修会には､20 名の参加者があった。参加者の半数近くが準会員（技術士補、技術士第一次試験合格者、JABEE 認定課程修了者）で、正会員（技術士）は 1/3 近くであった。

無記名によるアンケートの集計（回答者数 19 名）を行った。参加者の技術部門は、建設、経営工学が各 4 名で一番多く､情報工学 3 名、機械、電気電子各 2 名、航空・宇宙、資源工学、環境が各 1 名であり、多くの分野からの出席があった。

参加者の居住地は､東京 7 名､神奈川 4 名。以下栃木、群馬、長野、静岡、大阪が各 1 名であり、遠方視しては、大阪からの参加があった。

年齢では、30 代が一番多く全体の 1/3 以上である。以下、50 代、40 代、20 代と続き、60 代が 1 人いた。

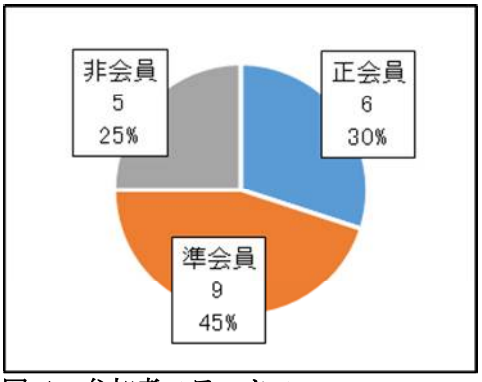

図 1　参加者ステータス

また、参加回数については、初めての参加は半数近くで、2～3 回が 1/3 あり、10 回以上の人が、1/6（1 人）合った。

参加のきっかけとしては、メール案内が大半であり、ホームページを大きく上回っていた。

参加の動機（複数回答）では、「テーマ・講師興味」が圧倒的に多かった。

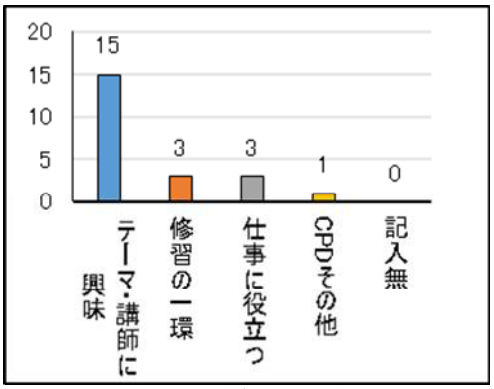

図 2　参加動機（複数回答）

5.　研修会の状況について

７月度の基本テーマは、「業務遂行能力」資質向上講座（コミュニケーション）であった。

◆　本研修会のテーマについて

テーマ：

「レゴ®シリアスプレイ®　（LEGO® SERIOUS PLAY®）　を活用したワークショップ」～組織のコミュニケーション活性化～

趣旨・目的：

講師からテーマを出し、参加者は自分でストーリを定義し表現する。いろいろな気づき，考えもしない発想が狙い。相手にわかる言葉でのコミュニケーションや、リーダとしてのコミュニケーションの気づき苦労した内容の気づき

講師からのご要望：

人数は 20 名～25 名、（30 人は超えないこと。）5 人×4 グループとし、専門分野、年齢がばらばらなグループにする。

名刺交換はせず、首から下げる名札を用意、ニックネームで呼び合うこと。

◆　講師について

講師は、城下りえ（Certified Facilitator of LEGO® SERIOUS PLAY® method and materials）であった。

外資系大手 IT 企業にて、開発、SE、ソリューション営業、顧客担当営業と広範囲な業務に従事。お客様の事業・組織改革を支援。後、大手企業での現場経験を生かして、教育分野にてグローバル市場に適用する人財育成に携わる。

2015 年 2 月、レゴ®シリアスプレイ®メソッドの認定ファシリテーター資格取得。以来、100 回以上のワークショップを実施。国内外の企業／教育機関／個人向けに、多彩なワークショップを展開している。

写真　1　城下氏による説明

◆　ワークショップについて

レゴ®シリアスプレイ®（LEGO® SERIOUS PLAY®）とは、MIT（マサチューセッツ工科大学）のシーモア・パパート教授によって体系化された「コンストラクショニズム理論」という学びの理論をベースに、レゴ社と MIT の共同研究にて開発された研修メソッドである。NASA をはじめ、Google など、大手企業様でも活用されている。

サイト紹介：レゴ社の紹介ページ

https://www.lego.com/en-us/seriousplay

写真　2　使用したレゴブロック（一部）

◆　演習について

このワークショップの参加者は、ブロックを用いて、自分の心の中に持つ、感情や考えなど、見えないものを「見える化」し、それを共有していく過程で自分の思う理想の社会や自分が提供できる価値を明確にした。

これにより、個々人が、自分の強みを知り、職場・社会に対してどんな貢献をしていきたいのか、また各々の貢献が集結したらどんな未来ができるのかについてレゴブロックを用いてグループごとに創作した。

以下、各グループが創作したものを発表した。

写真　3　演習の様子

◆　<u>グループ A の発表</u>

グループ A の発表内容は、会社の同僚など自分たちと、新しい課題を与えてくれる顧客との間で、環境への配慮をしながら両者の意見を聴き橋渡しをすることを表現したものであった。

写真　4　グループ A の発表

◆　<u>グループ B の発表</u>

グループ B の発表内容は、3 つのステークホルダー（①家族、同僚などの。②メーカー、工場、金融機関などのものを生み出すところ。③電気、インフラ、セーフティーシステムなど）を繋ぐ仕事（設備などから人を守りシステム同士を繋ぐこと）を表現したものであった。

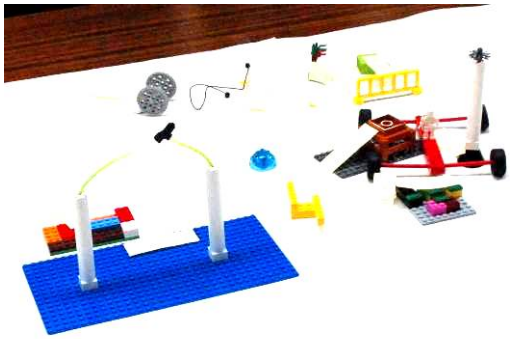

写真　5　グループ B の発表

◆　<u>グループ C の発表</u>

グループ C の発表内容は、3 つのグループ（①発注者、飲食店、コンビニなどお金を生み出し、サービスを作る。②エンドユーザー、消費者。③柵、社内、社会。）に分けた。そして、自分たちの立ち位置は、フクロウの様な知恵を持ち、カメのように一歩一歩地未知な努力をすることを表現したものであった。

写真　6　グループ C の発表

◆　<u>グループ D の発表</u>

グループ D 発表内容は、3 つのグループ（③研究開発部門。②エンドユーザー。最も尊い立場として家族、地球。）に分け、①と協力して、②に対してソリューションを提供することを表現したものであった。

写真　7　グループ D の発表

◆　<u>グループ E の発表</u>

グループ E 発表内容は、3 つのステークホルダー（①国、上司、発注者など強い立場の人々。②仲間、社員、地域住民など弱い立場の人々。③もの、機械、パイロットなど）を表現したものであった。

写真　8　グループ E の発表

◆　<u>野村副委員長による講評</u>

修習技術者支援委員会の野村副委員長からは、本研修会の以下の内容の講評があった。

受講者の方々は、普段使わない右脳をお疲

れになったと思います。本日の研修のなかで、色々な方々とのやり取りのなかで、気付きや新たな発想を得て、自身の強みや貢献できることなど気付いたことをと思います。この研修会で気付いた自身の強みや貢献できることを職場や社会で生かしていただければ良いと思います。

また、技術士としての業務は、チームで行われるもので、チームのメンバーとのやり取りにより、自身の考えやなどを説明できる様になることを期待しております。一日も早く技術士になられることを願っております。

写真　９　野村副委員長の講評

◆　参加者全員の写真撮影

最後に、参加者全員で写真撮影をした。

写真　１０　参加者全員

6.　発表研究会

修習技術者発表研究会では、１件の発表があった。

◆　発表

発表は、修習技術者（経営工学部門）の力石　賢氏による「アウトソーシング考」で、発表内容は、以下のとおりであった。

弊社では、戦略的 BPO として、工場に近い業務を関連会社に移管しようとしている。要はアウトソーシングを進めて効率化したといいつつ、言葉を変えた人員削減政策でしかない。しかし、世の中を見渡すと、アウトソーシングをやめて、自社で人を抱え込むビジネススタイルを模索する企業も出てきている。今回の発表では、アウトソーシングが役立つのか、それともただの虚構なのか自分なりに考察してみた。

質問としては、アウトソーシングと分社化の違いや、アウトソーシングの目的などについてなどが合った。さらに、技術士資格を取得した後の目標や、自分自身の課題についての質問があったなどがあった。

また、技術士の方からは、発表の仕方や、自身の経歴の積み上げ方について、アドバイスがあった。

写真　１１　力石　賢氏の発表

7.　情報交流会

情報交流会は、講演をされた講師の先生、発表研究会で発表した方、参加された技術士の方々を囲んで、今研修の演習や発表などを踏まえた、活発な意見交換が行われた。今後の修習活動に向けた積極的な情報交換が行われ、修習技術者にとって有意義な情報交流会となった。

写真　１２　情報交流会

以上。